

富谷小だより

渋谷区立

富谷小

学校通信

今、改めて「凡事徹底」を考える

校長 石川 亜由美

富谷スポーツフェスティバル本番が目前に迫りました。廊下などで行き会った子供たちに「練習は順調に進んでいますか」と尋ねると、「はい！ ばっちりです！」といった自信のある返事が、今年はいくつにも感じています。中には、「あと3回の練習で、隊形移動と動きをそろえることをやれば仕上がります。」と見通しのある発言をする6年生もいました。今年度は、昨年度まで以上に子供たちに任せる場面を増やし、先生たちは、全体を俯瞰した視点で指導や助言をするようにしてきました。これにより、自分たちでスポーツフェスティバルをつくっているという子供たちの意識が高まり、冒頭にあげたような自信や活動への見通しにつながっているのではないかと思います。

さて、4月の全体保護者会でお伝えしたとおり、今年度の本校の教育活動の最重点は、「子供主体の学校づくりの推進」です。この実現のために、改めて、「凡事徹底」を大切にしたいと考えています。

「凡事徹底」とは、「当たり前のことを当たり前、それも徹底して実践すること」を意味します。経営の神様と言われた松下幸之助さんが座右の銘としていた言葉です。耳にしたことのある方もいらっしゃると思いますが、松下さんは、取引先の企業を訪問したときに経営がうまくいっているかどうかを瞬時に見抜いたというエピソードがあります。一つめは従業員の「挨拶」、二つめは「整理整頓」、三つめはトイレなどの「掃除」、この当たり前のことが当たり前になっているかでその店の経営が分かるということでした。

本校でも、4月1日、今年度の始まりの日に、「返事や挨拶」、「整理整頓」、そして、「時間を守ること」

の大切さを子供たちが理解し、「徹底」できるように育てていくことを教職員全員で確認しました。

「返事や挨拶」。これは、保護者の皆様も意識を高くもち、お子さんたちに声をかけていらっしゃるものが伝わってきます。「おはよう（ございます）」、「さようなら」、「ありがとう（ございます）」などの挨拶が気持ちよくできる、さらに、すすんでできる、いつでもできる、誰に対してもできるように高めていきたいと思っています。

「整理整頓」については、一つの場合として靴箱があります。かかどろい、整った状態で靴が入っているのを見るのは気持ちがよいものです。些細なことだと思う方がいらっしゃるかもしれませんが、靴を履き替えた後に靴箱にそろえて入れる、この何秒もかからないことを意識して行えるということは、心を整えることにつながります。また、例えば、先生にノートを提出するときに向きをそろえるという丁寧さは、相手を思いやる気持ちを生みます。机の上や机の中の整理、学習用具や持ち物を整えることは、学習への見通しや意欲などにつながります。

そして「時間を守ること」。これも、社会の中で生きていくうえで必要な力であり、周りの人からの信頼に関わります。また、一緒に活動する相手を尊重する意識を育てます。どうしても遅れてしまう場合には、前もって伝えるという力も必要です。

「凡事徹底」、当たり前のことが当たり前になるまでには、強い意志と継続させる力が必要です。そして、この力が身に付くことが「子供主体の学校づくり」に大切だと考えています。ご家庭でも意識していただき、保護者や地域の皆様と共に育てていきたいと思っています。引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。